

Contents

アーティストメッセージ 2

講師 一龍斎貞水さん

和歌山県文化表彰受賞者 3

作家・林業 宇江敏勝さん

イベントガイド 4 5

伝統芸能新世代 木ノ本の獅子舞 6

大好き和歌山 未来を担う子どもたち 7

カルチャーインフォメーション 8



和歌山の国宝

いかけじらでんこんどうそうしんよ
沃懸地螺鈿金銅装神輿

【紀の川市中鞆淵・
鞆淵八幡神社所蔵】

鞆淵八幡神社は本殿、大日堂とも室町時代の建築で、国の文化財に指定されています。同社が所蔵する「沃懸地螺鈿金銅装神輿」は12世紀（平安時代後期）につくられたもので、後堀川天皇の勅により石清水八幡宮勧請の際に奉送されました。

artist message

アーティスト メッセージ

講談師の間から生み出される語りやリズムを「生」で感じとって

いよいよ、9月23日(祝・土)に人間国宝の一龍斎貞水による「立体怪談」が開催されます。深みのある語り口と声柄で演出する講談のほか、笑福亭松枝の落語と寄席入門小噺など、古くから人々に愛されてきた伝承芸の磨きぬかれた至高芸の公演が楽しみです。公演の前に、講談の魅力や当日の見どころについて伺いました。



講談師
一龍斎貞水さん

講談協会会長、重要無形文化財保持者(人間国宝)
浅野清太郎(本名)
昭和14年東京都文京区湯島生まれ。

自ら主催する「講談・湯島道場」や寄席の定席をはじめ、自治体主催のホール寄席、ディナーショー、海外公演、学校公演など幅広い公演活動を精力的に展開。「講談師、夏はお化け、冬は義士で飯を食い」と言われるほど怪談噺と忠臣蔵は大切な読み物(演目)ですが、講談師として初の全編読みきり『四谷怪談』〈全5巻〉、『忠臣蔵・本伝』〈全15巻〉のCD化を実現。特に怪談に関しては特殊演出効果を駆使した「立体怪談」と、その取り組みが関心を呼び「怪談の貞水」と言われます。



Q 講談の魅力を多方面から追及されている一龍斎貞水さんですが、「講談」の魅力とはどのようなものであるとお考えですか？

A デジタル化、娯楽の多様化が進む現代において、講談師の呼吸や間から生み出される語りやリズムを同じ空間において、「生」で感じとっていただけることだと思います。

Q 「講談は守るべきものと、開拓すべきものがある。」が座右の銘と伺っておりますが、その意味をお教え下さいますか？

A 守るべきものは先人達が創意工夫を重ねた伝統です。そしてその時代時代において試行錯誤から

開拓された生きた講談を演じることで、初めて伝統を守ったと言えるのです。

Q 「怪談の貞水」との異名をお持ちのようですが、なぜ人は怖い話を聞きたがるとお考えですか？

A 怪談は幽霊が怖いのではなく、人間同士が妬みや恨みにより、他人を陥れ、やがて幽霊を生み出してしまう過程が怖いのです。時代が移り変わっても人の心はそう簡単には変わりません。人知の及ばない力を持って、怨念を晴らす幽霊が、いつの時代でも正義の味方として、もてはやされる存在だからではないでしょうか。

Q 今回行われる「立体怪談」とはどのような舞台になるのでしょうか？初めてご覧になる和歌山のファンの皆様に、特徴的なところと、見どころを教えてください。

A 講談本来の語り、釈台、張り扇というスタイルに、大道具・小道具の舞台設営を施し、臨場感を高め、さらには照明、音響の視覚・聴覚的效果を加えて、恐怖と幻覚の空間を創り出します。

A 舞台上に立つ上で工夫されていること、または心がけていることをお聞かせください。

講談を演じる私の「芸」と、ご覧になるお客様「人」が一体となるよう、絶えず初心に帰り、どの高座も全力で務めることです。

Q 公演当日、ご来場される和歌山の方々にメッセージをお願いします。

A 前述の通り、話芸の醍醐味は「生」で聞き、観ることに尽きます。講談に接するに際して、難しい決まり事はありません。肩の力を抜いて、伝統芸の魅力を十二分にご堪能ください。



一龍斎貞水「立体怪談」
■開演／9月23日(祝・土)午後2時(開場／午後1時30分)
■場所／県民文化会館(小ホール)
■入場料金(全席指定)／一般3500円、学生2500円
■発売中

和歌山県 文化表彰 受賞者

和歌山県文化表彰とは、和歌山県の文化向上・発展に
顕著な功績のある人たちに贈られる賞です。

平成17年度 和歌山県文化功労賞

作家・林業 **宇江敏勝さん**

昭和12年、三重県尾鷲市生まれ。昭和32年、県立熊野高等学校卒。和歌山県観光ガイド専門員紀州語り部。昭和58年、和歌山県文化奨励賞。平成3年、第15回井植文化賞。平成10年、地域文化功労者文部大臣表彰。田辺市文化賞。田辺市中辺路町在住。



継桜王子社(田辺市中辺路町)で元財務大臣の塩川正十郎氏を案内



継桜王子社(田辺市中辺路町)で法螺貝を吹きながら

少年時代から文学に親しみ、高校卒業後、父親の炭焼きを手伝いながら生活の実体験をエッセーに綴り、同人誌に投稿して高い評価を受けてから、作家と林業を両立させてきた宇江さん。

山に住み、山の生活者としての視点で、山村の生活や文化、自然との共生、自然保護、動物の生態系などに関することを、エッセーや小説で次々と発表を続けています。42歳で「山びとの記」を出版し、さらに注目を集め、以後、より充実した作家活動を展開、山村の歴史や推移、現在の状況、山村経済問題など広く社会に問いかける一方、そこに生きる哀歓なども描いてきました。

また紀伊山地の参詣道を歩き、

58歳から熊野信仰の修験者として奥駆けにも参加。水や木が生き物のように感じられ、自然と一体となる修験道の奥深さをより実感しているそうです。平成8年から、10数冊に及ぶ著書の中から選んだエッセーを再構成し、改訂版を続々と出版しました。平成14年には「宇江敏勝の本 第一期 全6巻」を新宿書房から発刊。現在「第二期 全6巻」を刊行中。

また平成17年には中辺路・小辺路・大辺路などを自らが歩き体験したことを記した「世界遺産 熊野古道」が世界遺産登録に合わせて、出版されています。熊野を題材としたこれまでの多くの作品により、地域文化の振興に果たしてきた宇江さ

んの功績は多大なものがあります。

「今でも自分の持つ山に入って仕事をしていますが、とても楽しく、喜びを感じています。今後の活動も今までの延長で、山の暮らしのありのままを書き、熊野の自然の大切さを伝えていきたい。現在は家庭菜園の栽培にも力を入れているので、家庭菜園についてのエッセーも書きたいですね」と意欲的に語ります。

芸術文化の向上発展に顕著な功績があり、将来一層の成果と活躍が期待される人たちに贈られる賞です。

平成17年度 **きのくに芸術新人賞**

心に響き、魂に伝わる音楽をプロデュースし、
楽しさを共有したい

平成3年から音楽の楽しさを一流の演奏者と観客が共に楽しめるようにと、演奏家集団「音空間プロジェクト」を主宰する西島さん。総合プロデューサーとして企画構成の他、楽しいトークでコンサートの演奏曲を解説し、ピアノ演奏でも出演します。東京・大阪・長野・和歌山での開

催数は60回を数えます。

2004年から「よくわかる・オペラ」を企画。親しみやすくクオリティの高いステージでオペラの楽しさを広く伝えています。「これからもご縁をいただいた大勢の方々と一緒に音楽の楽しさを伝えていきたい」と熱く語る西島さんです。

音楽家
西島麻子さん



昭和45年、和歌山市生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒。平成7年度アゼリア賞、平成14年度大桑文化奨励賞、平成17年度和歌山市文化奨励賞受賞。和歌山県観光大使。東京都在住。

第39回和歌山県民文化祭参加事業

9/金
8

当日は一緒に演奏できます

青島広志 with 大阪シンフォニカー
交響楽団～本日の気分は、音楽家～関西から
文化力

- 開演／午後6時30分（開場／午後6時）
- 場所／県民文化会館（大ホール）
- 入場料金（全席指定）／一般2500円、学生500円（小学生から高校生まで）

演奏曲目のうち「J・シュトラウスⅠ：ラデッキー行進曲」は客席にご来場のお客様にもご一緒に参加できるプログラムです（事前に楽譜をお渡しします。当日楽器をご持参ください）。詳しくは事務局まで。



写真提供：神奈川フィルハーモニー管弦楽団

CHECK IT OUT!

テレビ放映している「題名のない音楽界 21」などでお馴染みのブルーアイランド氏こと青島広志氏がクラシック音楽の楽しさを軽妙な話と音楽で伝えます。

9/祝土
23

講談の魅力を多方面から追及

一龍斎貞水「立体怪談」

関西から
文化力

- 開演／午後2時（開場／午後1時30分）
- 場所／県民文化会館（小ホール）
- 入場料金（全席指定）／一般3500円、学生2500円

人間国宝の一龍斎貞水の深みのある語り口と声柄で演出する講談、笑福亭松枝の落語と寄席入門小噺など古くから人々に愛されてきた伝承芸の磨きぬかれた至高芸の公演をお楽しみください。



CHECK IT OUT!

講談の重要なジャンルである怪談噺では、深みのある語り口と迫力の声柄を武器にさまざまな演出を施しています。

10/日
29

世界に冠たる劇場が日本初上陸！

ウクライナ国立劇場オペラ
「トゥーランドット」世紀のスペクトルオペラ関西から
文化力

- 開演／午後4時（開場午後3時30分）
- 場所／県民文化会館（大ホール）
- 入場料金／SS席14000円（残席わずか）、S席12000円、A席9000円、B席6000円、C席（学生）3000円（残席わずか）

130年あまりの歴史と伝統を持つウクライナ国立歌劇場（キエフ・オペラ）が初来日し、「誰も寝てはならぬ」で有名なプッチーニの遺作オペラ「トゥーランドット」を総勢210名で上演します。美しくも残酷なトゥーランドット姫が問う3つの謎。中国の紫禁城を舞台に流浪の王子カラフが命をかけて姫君の出す謎に挑みます。

「伝説の時代」の中国・北京を舞台に繰り広げられる、美しくも残酷なトゥーランドット姫を巡る物語は異国趣味満載のきらびやかな舞台と群集に溢れ、プッチーニ特有の流麗な音楽が別世界へと誘っていきます。



名作シネマシアター

9月16日(土)・9月17日(日)

和歌山県民文化会館大ホール 両日とも12時30分上映開始（開場12時）

【入場料金】一日券400円 2日券700円、シニア500円（60歳以上・2日券のみ）

※当日、年齢を証明するものをご持参ください。



伊豆の踊子

9月16日(土) 上映作品

夜の河 上映時間 12:30～14:14

1956年 大映(京都) 出演：山本富士子・上原謙・小野道子ほか

五番町夕霧楼 上映時間 14:30～16:47

1963年 東映(京都) 出演：佐久間良子・河原崎長一郎・木暮実千代ほか

9月17日(日) 上映作品

伊豆の踊子 上映時間 12:30～13:57

1963年 日活 出演：吉永小百合・高橋英樹・大坂志郎ほか

五瓣の椿 上映時間 14:10～16:53

1964年 松竹(大船) 出演：岩下志麻・田村高弘・伊藤雄之助ほか

【お問い合わせ】財団法人和歌山県文化振興財団 ☎073-436-1331

インターネット・携帯電話からもご予約できます。<http://www.wacaf.or.jp>

11/土
18

伝統と格式を誇る歌舞伎の魅力が満載

松竹大歌舞伎
九代目 松本幸四郎「勸進帳」

■開演／午後1時（開場午後0時30分）

■場所／県民文化会館（大ホール）

■入場料金／一等8000円、二等6000円、三等4000円

演目は「歌舞伎囃」「吉原雀」「勸進帳」。松本幸四郎監修の「歌舞伎囃」は解説者が舞台をより楽しく詳しく見るためのポイントを伝えます。吉原雀は長唄の舞踊を、歌舞伎十八番の内「勸進帳」は義経主従の花道の出、勸進帳の読み上げ、山伏問答、飛び六法など、全編が緊張感あふれる見せ場の連続です。松本幸四郎の弁慶は900回も演じる当たり役です。

【歌舞伎囃】ご案内 錦弥

【吉原雀】鳥売りの男 信二郎、

鳥売りの女 高麗蔵

【勸進帳】武蔵坊弁慶 幸四郎、源義経 高麗蔵、亀井六郎 亀三郎、片岡八郎 亀寿、駿河次郎 宗之助、常陸坊海尊 錦吾、富樫左衛門 信二郎

演目

松本幸四郎監修

歌舞伎囃 楽しい歌舞伎への誘い

歌舞伎の世界をご案内する一幕です。歌舞伎の始まりからその歴史の変遷を当時の人物が登場させ、わかりやすく、実演を交えながら説明されます。

吉原雀

明和5年(1768)江戸市村座で上演された顔見世狂言「男山弓勢競」の大切(最終部分)に初演された桜田治助作詞、富士田吉治作曲の長唄の舞踊。

歌舞伎十八番の内 勸進帳

天保11年(1840)に七代目市川團十郎が初演した作品で、歌舞伎十八番の内のひとつ。能「安宅(あたか)」を素材に能舞台を模した松羽目で演じられます。



弁慶(松本幸四郎) 撮影/福田尚武



田辺ロケ映画『幸福のスイッチ』が 10月7日(土)から和歌山県先行上映

田辺市オールロケーションが話題の映画『幸福のスイッチ』が、10月7日(土)からジストシネマ和歌山・御坊・田辺・新宮の4館ほかで先行上映されます。同作品は映画を通して地域の知名度を向上させるシネマーケティング事業として、県および田辺市が協力し、製作されたもので、作品内には地場産業や伝統文化がさりげなく登場します。ミカン畑や梅林など田辺のおなじみの

風景をバックに、梅干しや備長炭など、紀州の名産物をスクリーンの端々で見つけることも。

ストーリーは田舎の小さな電器屋を舞台に、もうけにならない仕事ばかりを請け負う昔かたぎな父と、そんな父親に反発する二女をめぐる家族愛を描いたもの。主演の怜(れい)役を、映画『スウィングガールズ』の上野樹里が演じています。田辺での撮影について、「自然に囲まれた温かい



同映画のPRのため、和歌山市を訪れた主演の上野樹里(中央)、安田真奈監督(右)、妹役の中村静香(左)

町だなんて思いました。また、撮影がスタートする時に、エキストラのみなさんが歓迎会をしてくれたことがとても印象に残っています。ぜひ和歌山のみなさんにこの映画を観ていただきたいですね」とコメントしていました。

第39回和歌山県民文化祭

文化の薫り高い郷土づくりをめざして、毎年開催している県民文化祭も今年で39回を迎えます。9月から12月にかけて、県民の皆様の日頃の文化活動の成果を発表するものや、

優れた芸術作品を鑑賞するものなど、多彩な催しが予定されています。

県民文化祭参加の全事業を紹介した「県民文化祭総合パンフレット」は県庁文化国際課、各振興局総務

室、各市町村役場、県民文化会館、紀南文化会館などで配布中です。

なお、県民文化祭に関する総合的なお問い合わせは、☎073(441) 2050 県庁文化国際課まで。



伝統
芸能

新世代

地元伝統文化を引き継ぐ
新しい世代による活動を紹介します



舞に要する時間は30分。わが子をたくましく育てるために谷底へ蹴落とし這い上がってくるのを待ちながら谷底をのぞく場面や、元気なわが子の様子を安心して居眠りをする場面などをいきいきと演じます。

空中で舞う木ノ本の獅子舞 600年の伝統は県無形文化財

和歌山市木ノ本の「木ノ本の獅子舞」は600年の伝統を誇り、地元木本八幡宮の秋祭りに、五穀豊穡の祈りと感謝の心を込めて奉納される神事芸能です。「木ノ本西自治会」の青年たちがだんじり上の地上5mに渡された2本の青竹の上で勇壮に舞う梯子舞は全国的にも類を見ない珍しいものです。この伝統を守ろうと

昭和41年から結成された男性のみの「木ノ本の獅子舞保存会」のメンバー50人が毎年10月1日の夜から秋祭りまで毎晩練習をします。獅子は雄獅子で地上舞と空中で舞う梯子舞から成り、笛や太鼓・鉦に合わせ演じます。重さ4キロの獅子頭を持ちながら、逆上がりや肩車をして青竹の上で梯子舞の激しく厳しい練習

を行い、宵宮と本宮に備えます。

「伝統の継承のため保存会ではさまざまな取り組みを行っています」と会長の谷河さん。八幡台小学校で実際に経験してもらいながら伝統芸能の面白さや魅力を伝える活動や、全国各地のイベントやフェスティバルに参加し、「木ノ本の獅子舞」を披露しています。

生活に広がる国際交流の輪

和歌山県国際交流センター 気軽に参加してね! ちょこっとコンサート!



メキシコの紹介をするシルビアさん

6月24日(土)、メキシコ出身のサルサの達人、シルビア・オルテガ・ルナさんが、メキシコの紹介と、ご自慢のサルサを披露してくれました。メキシコ・オウハカ州の民族衣装を身につ

けたシルビアさんが自国を紹介すると、参加者は皆、彼女の話に聞き入りました。

その後、シルビアさんは、参加者一人一人に話しかけ、ステップのお手本を見せてくれました。何曲も踊るにつれて、参加者のステップはだんだんと軽快になっていき、踊るのを恥ずかしがっていた人も、シルビアさんに誘われると自然と踊りの輪の中に入っていました。

出演者も参加者も同じ地域の住民。ちょこっとコンサートは、アットホー

ムな雰囲気、どなたも気軽に来ていただけます。

和歌山県国際交流センターでは、偶数月の第4土曜日午後6時30分から、ちょこっとコンサートを実施しています。海外の音楽を通じて、外国の方と交流を深めてみませんか。

〒640-8319 和歌山市手平 2-1-2
県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛 8F
和歌山県国際交流センター
TEL: 073-435-5240

開館時間/午前10時~午後6時30分
休館日/水曜日・祝日(日曜日が祝日の場合は日曜日を開館し、翌日の月曜日を休館)、年末年始



木ノ本の獅子舞

県の無形文化財に指定。だんじり舞台の青竹をつたわりながら演じる獅子落ししの舞。

【開催日 2006年10月14日(土)・15日(日)】

14日／午後8時ごろ

15日／午前10時ごろ・午後4時ごろ

所 本本八幡宮

交通 南海和歌山市駅からふれあいの郷行きバスで木ノ本下車、または南海加太線八幡前下車 20分

電話 本本八幡宮 ☎073(451) 5915

We Love Wakayama

大好き和歌山



映像好きな人が集まる「和歌山県アマチュア映像連盟」のみなさん

撮影する楽しさと作品を創り出す面白さ！

和歌山県アマチュア映像連盟

県下の映像好きな人々が、映画及びビデオの撮影・編集の制作技術向上など映像による郷土文化向上を目指して昭和44年に発足した和歌山県アマチュア映像連盟。紀ノ川映像クラブ、打田映像クラブ、和歌山映像クラブ、和歌山8ミリビデオサークル、ビデオサークル紀南の5クラブから成り、現在、会員は48名で年齢も40歳代から70歳代と幅広く構成されています。

撮影した映像の編集作業



連盟活動は年1回の総会、1泊2日の「親睦撮影会」、県民文化祭参加「8ミリ・ビデオ映像祭」、県映像コンクール開催、会報紙発行など多岐にわたっています。実際に撮影した映像を編集し、タイトルとナレーション、音楽などを入れ、オリジナル作品に仕上げていきます。

会長の丹生善清さんは「祖先が大事にしてきた文化を映像集団で撮って残し、後世に伝えていきたいですね」と語り、「興味のある方は一緒に活動しましょう」と事務局長の山本慶蔵さん。

今年もすばらしい作品の数々が県民文化祭参加「8ミリ・ビデオ映像祭」で上映されます。日程は下記のとおり。

クラブ名	会場	開催日	開始時間
和歌山映像クラブ	メディア・アートホール	10月8日(日)	13:00
紀ノ川映像クラブ	橋本市民会館・大ホール	10月21日(土)	18:30
打田映像クラブ	打田福祉会館・ホール田園	11月4日(土)	18:30
ビデオサークル紀南	中辺路公民館	11月25日(土)	13:00
ビデオサークル紀南	紀南文化会館	12月2日(土)	13:00

未来を担う子どもたち



ウロコをはがして頭を落として…、包丁使いを教えてもらいながら、鯛の刺し身を自分たちで



ほかにもタコのサラダや鯛の煮付けなどを作りました。やっぱり加太の魚は新鮮でおいしい！

紀の川源流の川上村と和歌山市加太の子どもたちが交流

夏の日差しがまぶしい7月、奈良県川上村にある川上小学校から、29人の5・6年生が和歌山市の加太小学校にやってきました。両校は紀の川の源流と最下流の地域として交流を続けています。海で泳ぎ、

海釣りを一緒にした子どもたち。加太漁協青壮年部と女性部の協力で水産教室や料理教室も行われ、生の魚に触れ、料理にも挑戦。作った魚料理はおいしいとすべて平らげました。川上村の友達に自慢できる加太の良さ。加太の子どもたちも改めてふるさとの魅力を実感しました。

カルチャーインフォメーション

和歌山県立近代美術館

☎073(436)8690

「森鷗外と美術」展 ■9月10日(日)～10月22日(日)

作家あるいは軍医として知られる森鷗外。ミュンヘンで出会い生涯の親友となった原田直次郎はじめ、多くの美術家と交友をもった鷗外の美術との関わりを紹介します。



原田直次郎《風景》1886年 岡山県立美術館蔵

和歌山市吹上1-4-14 ☎JR和歌山駅または南海和歌山駅からバス「県庁前」下車徒歩約2分 ☎午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで) ☎月曜(祝日の場合はその翌日) ☎一般800円、大学生500円、高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生(外国人就学生を含む)は無料 ☎

和歌山県立博物館

☎073(436)8670

世界遺産登録記念特別展

「熊野・那智山の歴史と文化ー那智大滝と信仰のかたちー」

■10月7日(土)～11月19日(日)

この特別展では、熊野信仰の重要な拠点のひとつである那智山と那智地域の歴史、重層的な信仰のあり方や信仰が様々な育んできた文化の広がりを紹介します。



「那智参詣曼荼羅(部分)」

和歌山市吹上1-4-14 ☎JR和歌山駅または南海和歌山駅からバス「県庁前」下車徒歩約2分 ☎午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで) ☎月曜 ☎一般260円、大学生150円 *高校生以下・高齢者(65歳以上)・障害者の方・外国人留学生(外国人就学生を含む)は無料 *特別展は一般800円、大学生500円 ☎

和歌山県立自然博物館

☎073(483)1777

ドングリころころ工作教室 ■10月29日(日) 午後1時～午後4時

植物のタネや木の実が持ついろいろな形を観察しながら、ドングリを使ったマスコット作りに挑戦します。

【開催場所】館内レクチャールーム 【募集対象】小学生以上・一般(小学生は保護者同伴)30名 【参加料】入館料および103円(傷害保険料) 【持ち物】自宅周辺の里山や公園で拾った木の実やタネをお持ちの方は持参下さい。【参加申込み】行事名、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号記入の上往復ハガキで、もしくは<https://www.epref-wakayama.jp> から

和歌山市船尾370-1 ☎JRきのくに線海南駅からバス「琴の浦」下車すぐ ☎午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで) ☎月曜 ☎一般460円 *高校生以下・高齢者(65歳以上)・障害者の方は無料 ☎

万葉館

☎073(446)5553

万葉日本画展

■前期:9月6日(水)～11月12日(日)「万葉の花々」

後期:11月14日(火)～平成19年1月28日(日)「万葉のかけはし」

日本美術院同人評議員の清水達三先生の主宰する日本画の研究会「りんご会」の作品を展示します。各20点予定

和歌山の語り部講座「有間皇子と熊野古道」

■9月23日(土) 午後1時30分～午後3時

兵庫県有馬温泉から三田市、西宮市にゆかりの地がある「有間皇子」。その終焉の地である「藤白坂」まで、有間皇子が拓いた熊野古道は古代の海道でもあり、藤白・白崎・岩代・白浜へと至る紀伊万葉歌の謎を探ります。

【語り部】吉田昌生氏 【参加費】入館料のみ。事前申込み不要(先着50名)

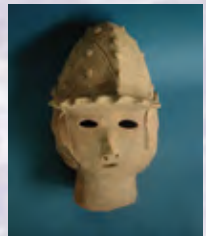
和歌山市和歌浦南3丁目1700 ☎JR和歌山駅または南海和歌山駅からバス「不老橋」下車徒歩約10分 ☎午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで) ☎無(年末年始及び整理点検日を除く) ☎一般200円、高・大学生100円、小・中学生無料 *高齢者(65歳以上)・障害者の方は無料 ☎

和歌山県立紀伊風土記の丘

☎073(471)6123

夏期企画展「紀ノ川流域の埴輪」

■開催中～9月18日(月・祝)



秋期特別展

「紀淡海峡の民ー黄泉の世界ー」

(考古展示)

■10月3日(火)～12月24日(日)

古事記・日本書紀による、「国生み神話伝承の島」淡路島の考古資料と、紀伊半島の磯間岩陰遺跡(田辺市)・西庄遺跡(和歌山市)などの考古資料を中心に、紀淡海峡に生きた海の民の黄泉の世界にスポットをあてます。

和歌山市岩橋1411 ☎午前9時～午後4時30分(入場は午後4時まで) ☎月曜(祝日の場合は次の平日) ☎一般170円、大学生80円、高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生(外国人就学生を含む)は無料 *特別展開催中は一般350円、大学生210円 ☎

イベントスケジュール

第60回記念和歌山美術展覧会「県展」

場所／和歌山県民文化会館県民ギャラリー(白浜、新宮、上富田、橋本でも展示)

県民の美術作品に対する創作意欲を盛んにして、本県における美術文化の向上と発展に資するために開催します。

問い合わせ ☎073(433)7124 和歌山県美術展覧会実行委員会 ☎073(441)2052 和歌山県知事公室文化国際課

第4回国際文化フォーラム 徳丸吉彦座長座談会

(和歌山県高野町会場)

テーマ及び内容「音楽と文化ー祈りにおける音楽ー」

■日時／平成18年11月5日(日) 午後1時～午後5時

■会場／和歌山県高野町 高野山大師教会本部

■主催／文化庁、和歌山県、高野町、日本経済新聞社、NHK、関西元気文化圏推進協議会

■傍聴／一般公募(無料)250人

■参加申込み／はがき・FAX・インターネット上で受付します。

☎073(433)1192 ☎<http://www.bunka.go.jp/forum.2006/>

■受付期間／9月1日(金)～10月13日(金)

■問い合わせ／☎073(441)2052 和歌山県知事公室文化国際課

11/月
6

根強い人気がある劇団四季のミュージカル

劇団四季ミュージカル「異国の丘」

■開演／午後6時30分(開場午後6時) ■場所／県民文化会館(大ホール) ■入場料金／S席8400円、A席7000円、B席5000円、C席3000円 ■発売開始日／【けんぶん友の会優先電話予約】9月6日(水) 午前10時から【一般先行電話予約】9月11日(月) 午前10時から【一般販売】9月16日(土)から



《撮影》中島仁寛

Wacaf(ワカフ) ボランティア募集

私たち、Wacafのスタッフと一緒に活動してくれるボランティアの方々を募集いたします。詳細は財団事務局総務企画課(☎073-436-1331)へお気軽にお問い合わせください

WACAF-P

文化情報誌 ワカピー Wakayama Culture and Arts POWER

【発行】和歌山県

【発行日】平成18年9月 【編集・問い合わせ】和歌山県文化振興財団(ワカフ) 〒640-8269 和歌山市小松原通1-1 (和歌山県民文化会館内)

☎073(436)1331 FAX.073(436)1335

【ホームページアドレス】<http://www.wacaf.or.jp>